

「当たり前」のことが「当たり前」にできる子を育てる第三小学校の教育

学校だより

No. 8

青梅市立第三小学校
校長 八木 慎一

令和5年10月31日

青梅市大門 2-317 電話 0428-31-7266 学校HP <https://www.city.ome.tokyo.jp/school/daisan/-e/>

子供たちにとっての「言葉」

校長 八木 慎一

朝のパトロールで学区内を歩いていると、こんなにたくさんあったのか？と思うほど、あちらこちらでコキアを見かけます。紅葉の進み具合で、赤や紫、緑が混じり合った微妙な色合いの株など、美しく変化する葉の色に秋の深まりを感じます。

さて、今月は読書週間があります。読書を通して得られる効果には、先人の考えや知識・知恵などを知ることや、物語などの非日常への想像力が鍛えられることなど、様々あります。しかし、読書をするものの最大の効果は、読んだ文章から新しい言葉や言い回しを知ることができることだと私は思います。使える言葉・語彙が多いと、話をするときに言いたいことに合った適切な言葉で伝えることができます。また、きちんとした国語力が有るか無いかで、相手への印象も変わります。本を読んで新しい表現や言葉に出会ったら、実際に会話で使ってみることを勧めます。言葉は使うことで身に付きます。

先日、言語の獲得に関連する記事を読みました。子供はお腹の中で産まれる前から外の音や母親の声を聞いているそうです。1歳になる頃までは親の人種等に関係なく、世界中のどの言語でも習得できる能力が人間には備わっているのだそうですが、やがて周囲で使われている言語だけに反応するようになります。さらに成長すると単語を発音し、やがて二語文を話すようになり、概ね5歳頃には大人とあまり変わらない言葉を理解し、話せるようになります。子供は毎日の生活の中で、親など大人の真似をしながら言葉を獲得していくわけです。また、これに加えて友達との会話や、書籍やテレビ、さらにインターネット等、子供たちは自分たちを取り巻く環境から言葉を獲得し、各自の言語体系を確立していきます。

このことから考えたのは、子供にとっての言語環境の重要性です。あらゆる場面で私たち大人は、“子供たちに与えるべき好ましい言葉”について考え、取捨選択して与えていく必要があると言えましょう。普段の言葉遣いだけでなく、書籍や各種メディア等にも気を配りたいものです。ご家庭でもご協力をお願いいたします。

ところで、11月18日は子供たちが張り切っている音楽会があります。是非ご来校ください。

保健体育部より

先日はたくさんの保護者の皆様に三小スポーツDAYにお越しいただきありがとうございました。4年ぶりの全校開催となり、学年関わらず仲間を一生懸命に応援する子供たちの姿が見られました。低・中学年が迫力のある高学年の競技や演技を憧れの眼差しで見たり、高学年が低学年の頑張る姿を優しく見守りながら応援したりする様子に微笑みさを感じました。

表現活動では、学年ごとに実態に合わせて工夫した演技に取り組みました。時間をかけながら仲間とひとつのものを作り上げたことに、多くの子供たちからは達成感に満ちた表情が見られました。また、高学年は係活動を通して、いろいろな立場の人のことを考え、責任をもって活動をする大切さを学びました。三小スポーツDAYを通して、多くのことを学び、成長した子供たちです。

今後も、「仲間と協力し、最後までやり遂げることで得られる達成感」を感じられるような体育的行事を子供たちと共につくっていきたいと考えています。

最後に、「三小スポーツDAY」の開催にあたり、PTAの方々やボランティアの方々をはじめ、保護者の皆様のご理解、ご協力に心より感謝いたします。

理科部より

「150周年実りの秋 三小米！4か所で収穫」

三小スポーツDAY 参観の時、黄金色のたわわに実った稲をご覧になった保護者の皆さんもおられると思います。理科部では、旧霞村の農業の基盤である、養蚕と稲作の体験学習に5年生の理科学習と生き物観察クラブで取り組んできました。今年の稲作は、①図工室南の学習田②新校舎（学童）南側2面の田③プール東側に設置したバケツ稲④地元の方所有の藤ノ木農道天皇塚の4か所で行なってきました。6月上旬に一本植で田植えしたお米。猛暑に耐え、その収穫を10月中旬から行いました。昨年のお米は「もち米」でしたが、今年のお米は岩手県一関市農家から頂いた「うるち米」で、銘柄は「ひとめぼれ」です。「いっぱい刈れてうれしかった。」「バケツ稲より長くて大きかった。」「色が黄色く茎の下の方を刈りました。」「初めて稲刈りをしたけどノコギリみたいな感じで刈らないといけないと思った。」「益虫のクモがいた。」などの感想が寄せられました。今「天日干し」でじっくり時間をかけ一粒一粒のお米を丁寧に乾燥させています。年末には三小米を5年生全児童にお配りします。ご賞味ください！

5・6年生理科担当 津川 正洋

5年生の様子

家庭科「食べて元気ご飯とみそ汁」

家庭科では、生活に必要な知識と技術を習得するという大きな目的があります。5年生は、「食べて元気ご飯とみそ汁」という学習の中で、ご飯の炊き方やみそ汁の作り方を学んでいます。まず、米や味噌の食材としての特徴や米の炊き方を調べ、知識を身に付けました。次に、調理実習でご飯を炊きました。炊飯器ではなく透明の鍋を使い、炊いているときの様子を観察しました。水の量や火加減に難しさを感じていましたが、普段食べているご飯ができるまでの過程や大変さを知ることができたようです。子どもたちは、炊けたご飯を食べ、「おいしい！」と嬉しそうにしていました。今週は、煮干しからだしをとりみそ汁を作ります。体験的に学んだことをこれからの生活に活かしてほしいです。

かすみ学級の様子

かすみ学級の3年生～6年生は11月1日（水）、11月2日（木）に宿泊学習に行ってきます。3年生～6年生が宿泊の事前学習をしている裏で、かすみ学級の1年生と2年生がこっそりと集まって、何やらこそこそと、、、あやしいなあ、、、

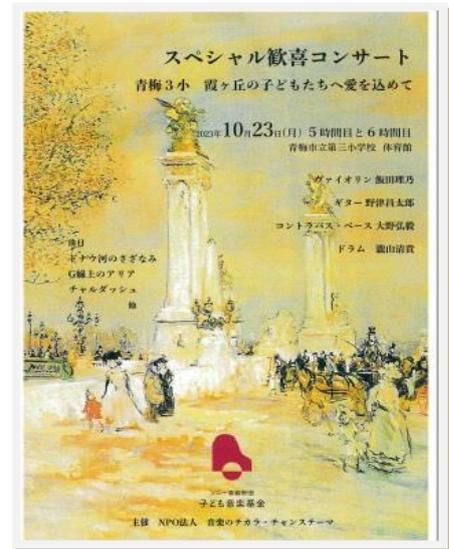
「宿泊学習に行くぞ～」と気持ちを高めていると1年生2年生からサプライズ！！お兄さんお姉さんたちに、プラ板で作ったお守りのプレゼントがありました！！どうやら「楽しんで、無事に帰ってきてね」と願いを込めて、こっそりと制作していたようです。受け取ったみんなも大喜び！！素敵なプレゼントをありがとう！！

音楽鑑賞教室

10月23日(月)5校時はかすみ学級、6校時は5年生を対象に音楽鑑賞教室を実施しました。本校卒業生である地域の方が「三小の子供たちのために何かできませんか」と話しに来て下さったことがきっかけです。その方が主宰するNPO法人が中心となり、企業の財団の協力の元、プロの演奏家をお招きしての音楽会が実現しました。

当日は、管弦楽や吹奏楽などの鑑賞教室と異なり、とても現代的なバンド音楽を聴くことができました。曲目も児童にあわせて「コナンのテーマ」なども聞かせてくださいました。楽しい音とお話であっという間の40分でした。アンコールで演奏してくださったのはなんと三小の校歌、バンドバージョンです。子供達も嬉しそうでした。

音楽っていいな、と思ってきていたらうれしいです、とバンドの方がおっしゃっていました。



お知らせ・お願い

◆三中裏のハチについて

クヌギの蜜にスズメバチが飛来していました。青梅市担当部署と業務職員により、木の根本にカバーをかけました。毎日のパトロールの結果、1週間前からハチの飛来はなくなっています。登下校での利用を再開しますが、引き続き注意して通行するように指導を続けます。



◆不審者の対応について

校区内で不審者情報があります。学校では把握次第メールで情報を提供しています。配慮を要する内容は一部提供できないこともあります。できる限り速やかにかつ必要と判断した内容をお伝えしています。

把握した内容は青梅警察署にも速やかに提供しているところですが、警察としてはできる限り早く情報を入手して対応をしたいと話されています。不審者等の情報がありましたらできる限り速やかに110番をしていただくようお願いします。